

## ジュニア科学クラブ2007実施報告

江越航\*

### 概要

当館では毎月一回、小学校5・6年生を対象にした「ジュニア科学クラブ」という行事を実施している。これは子供たちに科学への理解や興味を深めてもらうことを目的に、プラネタリウムで星空や宇宙に関する話題を解説したり、さまざまな科学実験を実施したりする会員制の行事である。本稿では2007年度に実施した内容について報告する。

#### 1. はじめに

ジュニア科学クラブとは当館において小学校5・6年生を対象に2000年度より実施している事業である。プラネタリウムや実験教室を通して、子供たちに科学への理解や興味を深めてもらうことを目的としている。学校が週休2日制となったこと、また当館友の会が主に中学生以上を対象にしており、小学生向けの内容の行事への要望があったことから発足したものである。

クラブは8月を除く毎月第4土曜日に9時45分から2時間程度行なった。内容は、プラネタリウムでの星空解説、およびさまざまな科学実験を行なう実験教室もしくは展示場・サイエンスショーの見学が中心である。

#### 2. 申し込み状況

ジュニア科学クラブの定員は150名、年会費3,000円である。募集の1ヶ月ほど前から館内ポスター・ちらし、ホームページ等で広報を行なった。また、科学館近辺にある小学校20校には直接訪れ、校長先生等にクラブの紹介をした。直接訪問した小学校からは54名の生徒が入会した。

2007年度に関しては比較的広報は控えめであったが、近年科学教室に対するニーズの高まりから、年々入会希望者が増えている。受付開始は2007年2月24日(土)12時からとしたが、混乱を避けるため、朝9:30から整理券を配布した。しかし整理券は配布を開始してから約1時間ですべてなくなった。整理券をもらっても入会手続きをしない方もいたため、2007年度の

会員数は139名となった。会員の内訳としては、大阪市内が最も多く98名、市内を除く大阪府下が29名、府外が12名であった。また、学年別では5年生81名、6年生58名(うち、2006年度からの継続者34名)であった。

#### 3. 活動内容

プログラムの前半約45分は全員がプラネタリウムホールに集合し、実際にプラネタリウムを使用した投影により、学芸員が毎月交代で今月の星空や天文学・宇宙に関する話題を取り上げて解説した。後半は場所を移動して、実験教室、または展示場において展示物やサイエンスショーの見学を行なった。実験教室は学芸員が担当するほか、昨年度より日本IBM社会貢献・ボランティアチームにも担当していただいている。

実験教室は1ヶ月ごとに5年生と6年生が交代で行かない、実験教室がない月は、展示場・サイエンスショーの見学とした。写真1・2は実験教室の様子である。一昨年まで科学実験に関しては、会員が実験は行なわず、学芸員が演示実験を行なう方式が中心であったが、昨年より会員自らが作業する科学実験を行なえるようにした。ただし部屋の容量および担当者の人員配置・準備の関係から、会員を半分に分けて1ヶ月ごとに交代で行なうこととしている。具体的な活動内容については、表1に示したとおりである。IBMのグループが行なった実験は、IBMが社会貢献活動の一環として支援している「トライサイエンス」と呼ばれるWebサイトに掲載されているものであり、ここでは身近な道具で行える質の高い実験が紹介されている。

\*大阪市立科学館 学芸課 学芸員  
E-mail: egoshi@sci-museum.jp

表1 2007年度ジュニア科学クラブの内容一覧

日時	参加者	内 容		対象	担当
4/28	119	プラネ	いろいろな星座	全員	嘉数
		実験教室	探査機を宇宙に送ろう	6年生	日本 IBM
5/26	113	プラネ	金星の満ち欠け	全員	渡部
		実験教室	探査機を宇宙に送ろう	5年生	日本 IBM
6/23	118	プラネ	太陽の話	全員	江越
		実験教室	鉄のひみつ	6年生	斎藤
7/27	70	プラネ	「あまのがわ」ってなんだろう？	全員	石坂
		実験教室	鉄のひみつ	5年生	長谷川
9/22	93	プラネ	月のおはなし	全員	石坂
		実験教室	アルミのボート	6年生	日本 IBM
10/27	78	プラネ	1等星、2等星、3等星・・・	全員	飯山
		実験教室	アルミのボート	5年生	日本 IBM
11/24	79	プラネ	アンドロメダ銀河を探そう	全員	渡部
		実験教室	望遠鏡をつくろう	6年生	長谷川
12/22	79	プラネ	火星を見よう	全員	江越
		実験教室	望遠鏡をつくろう	5年生	長谷川
1/26	78	プラネ	「かぐや」月から地球を見る	全員	飯山
		実験教室	水星のクレーター	6年生	日本 IBM
2/23	76	プラネ	土星が見やすい時期	全員	嘉数
		実験教室	水星のクレーター	5年生	日本 IBM
3/22	76	プラネ	日本の科学衛星	全員	江越
		実験教室	10円玉をピカピカにしよう	全員	岳川



写真1 実験教室・アルミのボート



写真2 実験教室・望遠鏡をつくろう

#### 4. おわりに

新規会員募集には多くの申し込みがあり、実際新年度にジュニア科学クラブが始まった当初は8割以上の会員が参加しているが、後半は5割程度しか参加しなくなる。そのため土曜日のプラネタリウムの稼働率としては、もったいない状況となる。多くの会員に継続して通ってもらえるようにしたいが、実験教室をこれ以上増やすのは難しく、課題となっている。

2007年の「国際物理オリンピック」で金メダルを獲得した高校生の一人は、ジュニア科学クラブが始まった2000年から2001年の会員であった。ジュニア科学クラブが一つの刺激になったと考えているが、他の多くの会員たちにとっても、ジュニア科学クラブが宇宙や科学に対する興味を喚起し、将来にわたって科学へ対する興味・関心を持ち続けるきっかけになることを目標としたい。